

A0602-02	防油堤あるいは防液堤は漏れた液体を封じ込めるためにある		
本文	防油堤や防液堤の水抜き弁は水抜き終了後には必ず閉めること。 防油堤や防液堤は、貯槽から漏洩あるいは溢流した油(液)の外部への流出を防ぐためのものであり、適正な管理がなされなければ設置した意味がない。		
リスクの種類	環境汚染、火災誘発	関連目次・章節	
理由(何故)	水抜き弁が開いていると油や液が漏れた時に排水経路に流出し、環境汚染や火災発生など災害を拡大する。これでは防油堤あるいは防液堤の役目を果たさない。		
方策	防油堤や防液堤に係わる管理体制を明確にし、日常作業に組み込む。 (1) 管理部署を定め、管理責任者を決める。 (2) 管理担当者は定期的に現場巡回し、水抜き弁の状況及び防液堤の破損等を点検する。 (3) 管理責任者は定期的に作業記録をチェックするとともに現場巡回の点検項目に加える。 (4) 水抜き作業中は現場を離れないこと 屋外の防油堤・防液堤は降雨による堤内への雨水の滞留が避けられないため、水抜き弁の操作は日常的に行われることが多い。作業員に現場危機管理の重要性を納得させ、モチベーションを維持する工夫も大切である。		
事故例	原油屋外タンクの底板部から原油が漏洩し、防油堤の水抜き弁が開かれたままになっていたため原油約 1 キロリットルが海へ流出して環境汚染を引き起こした。 (1980 年、岡山県)		
法的参考事項	危険物の規制に関する政令 第 11 条(屋外タンク貯蔵所の基準)第 1 項第 15 号 液体の危険物の屋外貯蔵タンクの周囲には、総務省令で定めるところにより、危険物が漏れた場合にその流出を防止するための総務省令で定める防油堤を設けること。		
備考	管理記録を残すことは、管理レベルを高めるだけでなく、顧客等の第三者の査察にも役に立つ。また、現場の危機管理意識を醸成する仕組みとしても有効である。		